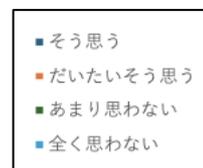


学校自己評価

サミットアカデミーエレメンタリースクール佐久
自己評価委員会

1. 前文

本資料は2024年12月に実施した「学校生活と学習についてのアンケート」の結果の分析に基づく自己評価である。これはサミットアカデミーエレメンタリースクール佐久（以下、サミット佐久）、学則第20条に基づき、サミット佐久における教育活動その他の学校運営状況に関し、教員と保護者、そして児童によるものである。有効回答数は教員11件、保護者96件、児童140件である。この分析においては全回答の内、75%以上がポジティブであれば、前向きな結果が得られたと判断し、分析をしている。以下、その分析について、2024年度の成果と課題をアンケート結果に基づきながら記述するものである。なお、アンケート結果の円グラフは右の通りの回答内訳となる。

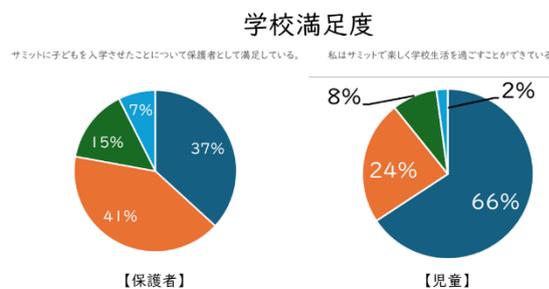


2. 2024年度の成果

学校運営における成果は、その学校に通う児童や保護者がその満足度をどのように考えているかで測られるべきである。2024年度の本校の学校運営の成果として学校満足度に関する項目を提示する。

(1) 高い学校満足度

保護者向けアンケート設問32「サミットに子どもを入学させたことについて保護者として満足している。」および、児童向けアンケート設問22「私はサミットで楽しく学校生活を過ごすことができている。」に対する回答が右のようになっている。



保護者においては約78%、児童においては約90%が満足、あるいは楽しく学校に通っていると認識している。「子どもが毎日、笑顔で学校に通えるようにする。」としたサミット佐久の目標達成に近づいていると言える。

(2) 満足度が高い要因

では、このように学校に対する満足度が高くなった要因はどこにあるか。自己評価委員会ではその要因が以下の4点にあると考える。

i サミットで英語を学ぶことができています。

教員も、保護者も、そして

児童もサミット佐久の学習

を通して英語を学ぶことが

できていると感じている。自由

回答欄には「ほとんど英語

に触れていなかった子で

すが、入学してから毎日英語

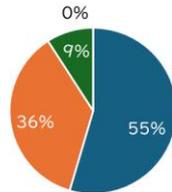
に触れ、抵抗感もなく英語

に馴染んでいきました。」(保護者)とあり、毎日、子どもたちが英語に触れていることでその変化

を感じている保護者も少なくないようである。

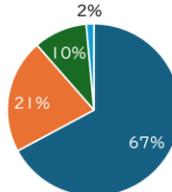
英語学習について

イマージョン、デュアルランゲージプログラムを通して児童が英語を学ぶことができています。



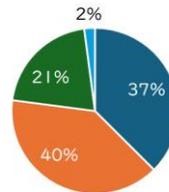
【教員】

サミットでは、英語を学ぶことができています。



【保護者】

サミットでは、イマージョン、デュアルランゲージプログラムを通して英語を学ぶことができています。



【児童】

ii 体験的な学習を行うことができています。

問題解決的な学習を、体

験的に行うことを教員も意

識して実行し、保護者と児

童もその学習の意図を実感

している。「先日のサミットデ

ーで訪問した草間彌生さん

の美術館は、それまでに担

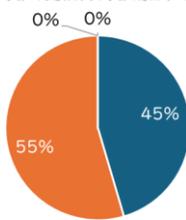
任の先生がリンクさせた学びをテーマにして下さったこともあり、子供が大変感激して帰って来まし

た。」(保護者)と自由回答欄にある。学校で学んだことを外の世界に飛び出して、体験を通して学

びを深めていくことを今後も続けていかなければならない。

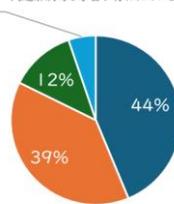
体験学習と問題解決型学習について

体験的な学習や問題解決的な学習を意図的に行っている。



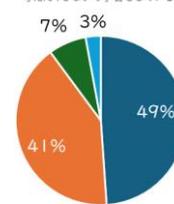
【教員】

サミットの授業では、体験的な学習や問題解決的な学習が行われている。



【保護者】

私は、何かを体験したり、「どうしてだろう?」と考えたりしながら学習をしている。



【児童】

iii 先進的な教育を行うことができています。

サミット佐久では、1~4年生

にiPadを購入していただき、

タブレット端末を活用した学習

をすすめている。特に英語学習

においては、児童の意欲向上

と、視覚的、聴覚的支援の一助

となっている。こうした学習を行

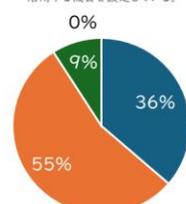
うことで、他校にはない先進的な学習を推進することができている。

※5、6年生については、移行期間であるため、サミット佐久よりChromebookを貸与している。今

後2年かけて、すべての学年がiPadを一人一台所有することとなる。

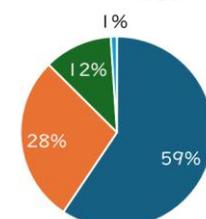
タブレット端末やPCの活用について

教科学習で、児童がタブレットやPCを活用する機会を設定している。



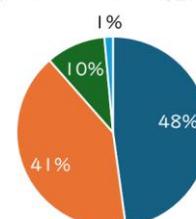
【教員】

サミットではタブレットやPCを活用している。



【保護者】

授業では、タブレットやPCをつかって学習をしている。

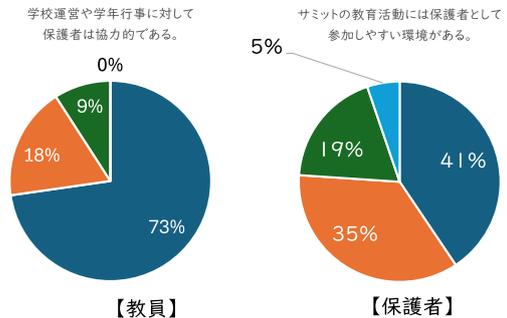


【児童】

iv 保護者が積極的に参加できる風土がある。

今年度の学校行事に多くの保護者の方にご参加いただいた。教員もサミット佐久の保護者が「保護者が協力的である。」と感じ、保護者も概ね「参加しやすい環境がある。」と感じている。開校初年度で、教員だけではできなかった学校運営を、保護者、地域など様々なステークホルダーの援助を得て、実行することができた。「新しい学校を皆で作っていくワクワク感があります。」(保護者)と自由回答欄にあり、開校初年度であることを好意的に捉えてくださっている保護者もいる。次年度以降も、多くの方が積極的に参画しやすい学校運営を心がけていかなければならない。

学校と保護者の協力



3. 2025 年度の課題

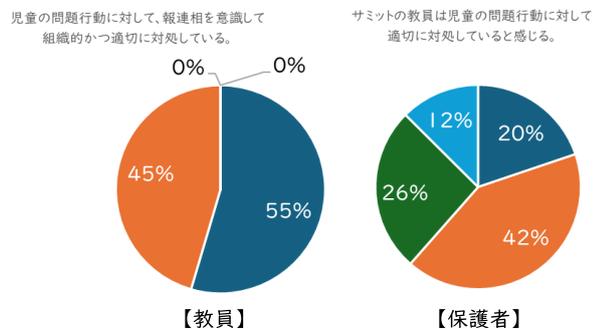
以上のように学校運営に関する成果をあげた一方で、サミット佐久にはまだまだ改善すべき課題があることも事実である。アンケート結果から見る、今年度の課題として残された項目を3点あげる。

(1) 生徒指導体制の充実の必要性

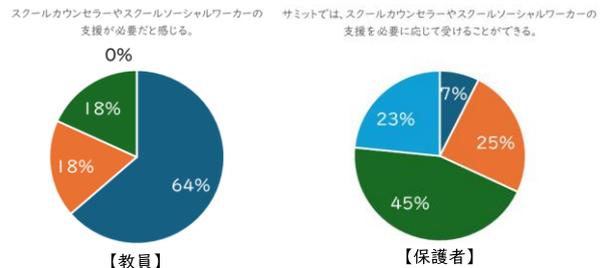
教員は児童の問題行動について適切に対処していると考える一方で、保護者の38%がまだ不十分であると感じている。「日々のトラブルや課題についての担任の先生にご対応いただいていることは理解するが、仕組みや組織としての対応が必要ではと感じることもある。」(保護者)という意見がある。そのように感じられる要因の一つとして右のスクールカウンセラー(SC)とスクールソーシャルワーカー(SSW)のことがあげられる。

サミット佐久には現在のところ、専属のスクールカウンセラーやスクールソーシャルワーカーは所属していない。教員の82%がその必要性を感じ、保護者の68%がそれらの支援をサミット佐久では受けられないと感じている。しかしながら、専門機関の支援が必要になった際、2024年度においては、御代田町教育委員会の臨床心理士に依頼し、児童の特性と支援方針について意

生徒指導対応について



SCやSSWについて



見を交わすケース会議を開催した例がある。必ずしも、サミット佐久において専門機関の支援を受けることができないわけではないが、その事実が周知されていない。それを広く知らせることと、専属のスクールカウンセラー等の配備が次年度以降の課題である。

(2) キャリア教育の視点

学習の中で、特にアンケートの結果が芳しくなかったのがキャリア教育の視点である。

児童がなりたい自分やつきたい仕事

事について考えられるキャリア教育を実施しているかの問いについて、教員の54%が、保護者の68%が不十分であると感じている。サミット佐久に通っている児童には、英語学習や様々な体験的な学習を行う中

で、学習の意義や目標を中長期的な視点を持って取り組めるよう、学校全体として取り組んでいかなければならない。

職業に関するキャリア教育



(3) 頑健な組織体制の構築

最後に、サミットアカデミーがより充実した教育環境を整えるために、教育目標の周知と頑健な組織体制の構築が課題として残っている。

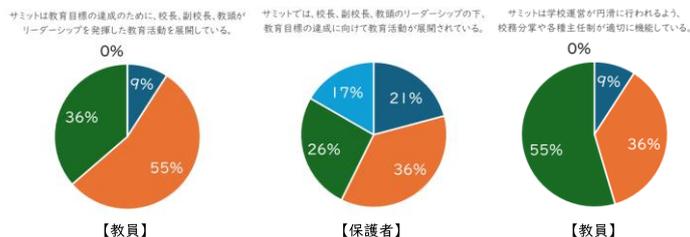
教育目標の達成のために組織一体となった取り組みがまだまだ足りない、教員も、保護者も感じている。「校長の思い描くビジョン

やサミットイズムが知りたいと思います。示していただかないとわかりません。入学以来、全家庭へ対し一度も校長からのお便りがありません。」(保護者)日々の教育活動について、担任からだけでなく、学校から家庭に対して周知をはかることは次年度の必須課題である。

また、校務分掌については、学校教育法施行規則43条にて「小学校においては、調和のとれた学校運営が行われるためにふさわしい校務分掌の仕組みを整えるものとする」と定められている。所属する教員が働きやすく、かつ調和のとれた学校運営を行うために、組織体制を整えなければならない。

教育目標達成とリーダーシップ

機能的な校務分掌



4.まとめ

以上のように、2024年度のサミットアカデミーエレメンタリースクール佐久の成果と課題を、アンケート結果より分析した。今年度は子どもたちが楽しく学校に通うことができていることについては大きな成果であるが、その細部には様々な綻びがあり、保護者、地域の数多くの協力を得て成果を上げることができている。

また、今年度は「開校、一年目としては良いと思いますし、現場の教職員の方が真剣に取り組まれていると感じます。」「開校初年度で子供達が元気に通えている事に感謝いたします。」「開校初年度で模索しながら指導くださっていることに敬意を持って親も接しています。子供達にとっては貴重な1年1年です。中高学年への英語教育の充実を期待します。」(いずれも保護者)と、開校初年度であることから温かく見守っていただいている向きも少なからずある。来年度以降はその枕詞は使えず、サミットアカデミーの真価が問われることとなっていく。その時も継続して成果をあげられるよう、質実剛健で、持続可能な学校運営を目指していかなければならない。